

温泉建設より――戸沢ひろゆき議員の質問 菅生地区の下水道計画を急げ



田中雅夫あきる野市の市長は、平成9年に計画された十里木長岳観光整備地区について、平成12年に、周辺の観光施設の温浴施設は経営が厳しく、凍結せざるを得ないと計画を断念しました。当然のことでは

す。しかし、合併して10年までしか、有利な旧合併特例債（借金の一部を地方交付税の基準財政需要額にプラスされる）を使って、温泉建設を復活させました。

最初は日本共産党市議団だけでは

なく保守会派の政和会も、憂慮すべきだと予算修正しましたが、今年の3月議会で、賛成の態度に変身してしまいました。

現在は日本共産党市議団だけが、「凍結」を求めていました。すでに1,500戸の井戸を掘り、乙津橋の改修、つり橋の橋脚などで3億円も投資していますが、橋は地元の「活性化」につながりますので、ここまでで止めて、本体工事、湯沸し施設、コテージの棟（モーテル風）をやめて、計画した予算を、生活優先に使うべけです。とくに、菅生地区などの調整区域だからだと遅らせてきた下水道工事に予算を回すべきだと強く主張してきたのは、戸沢ひろゆきだと言えます。

戸沢ひろゆき議員の発言（一般質問）と回答

《質問》

質問としてはパート二になりますが、施政方針で地域名をあげて市街化調整区域の下水道の計画について発言をしてありました。以前から進める計画のあつた菅生地区が抜けてあります。菅生地区は工場団地、高校もあり、尾崎地区の西側には日の出町の市街化区域、三吉野地域があります。市の考えを明らかにしてほしいと思いますので質問いたします。

《回答》

市の公共下水道事業認可計画の面積は、市街化区域約1,119ヘクタールと市街化調整区域約24を合わせた約1,343ヘクタールであります。

市街化区域につきましては、御承知通り平成14年度にはほぼ完了しております。現在は市街化調整区域を主に事業を進めているところであります。

市街化調整区域のうち、雨間、上代継、下代継、引田、折立、草花、尾崎、小和田及び戸倉などの地区については、市街化区域に隣接しかつ住宅が密集しており、投資効果が高く効率的な整備が図れるため、事業認可を受けたといいであります。現在の事業認可区域の整備状況を見ながら実現に向けた取り組み、尾崎地区であります。前段で述べたように認可区域に入っていますので、平成17年度から流末である菅瀬橋交差点付近の整備に入り、随時西側へ整備を進める予定であります。

速記録より



あきる野民報

号外 2005年5月25日
日本共産党あきる野市委員会
発行責任者： 松平重幸 Tel・FAX (558) 0718
日本共産党あきる野市委員会は次の見解を発表しました。